

企業名： 日本新薬

レポート名： 日本新薬レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか。

私は日本新薬レポート 2021 を読んで、日本新薬の持続的な成長と目指す姿の実現のための取り組みを理解することができた。これからも特長ある医薬品や機能食品の提供を通じて、人の健康と豊かな生活創りに貢献することが日本新薬の使命と果たすべく、「世界のヘルスケア分野で存在意義のある会社」に向かって成長していくことが、日本新薬の目指す姿である、と考えている。以下は、その理由を述べるのである。

最初に、

経営方針：高品質で特長のある製品を提供する。社会からの信頼を得る。人ひとりが成長する。

行動指針：チャレンジ（色々な目標に取り組む）・スピード（何事にも速く対応）・インベスティゲーション・スマイル（ポジティブな環境づくり）

最後に、ESG 経営への取り組みを強化してまいるからだ。（ESG 経営とは、気候変動問題や労働問題など世界的な社会課題が顕在化している中、企業が長期的な成長をしていくために「Environment（環境）」「Social（社会）」「Governance（企業統治）」の要素を考慮した経営のことを指す。）

ESG 経営の環境への取り組み

環境マネジメント

日本新薬は、人々の健康と豊かな生活創りに貢献する企業として、地球環境に配慮した事業活動を行い、環境の保護・維持・改善に取り組み、環境との調和のある成長を目指す。

気候変動対策

地球温暖化による気候変動がもたらす影響を考慮して、エネルギー使用量の削減などにより CO2 排出量を削減するために努めている。

資源循環の推進

自然資本から得られる資源が有限であることを認識し、再使用や共同利用を含めた資源使用量の削減を進めるとともに、リサイクル原料の活用にも目を向け、本社から排出するのはリサイクル資源に回すことで資源循環を図り、廃棄物削減および最終処分量の縮減に努めている。

化学物質の適正管理の推進

日本新薬は、さまざまな化学物質を取り扱う上で、これらを適正に管理する。

生物多様性の保全

日本新薬では、世界的にも絶滅が危惧されている植物や、環境省指定の絶滅危惧種などの保全活動や見学研修会を行っている。

ESG 経営の社会への取り組み

従業員の健康増進・職場安全の確保

職場環境と労働条件を整備するとともに、従業員とその家族の健康づくりに積極的に取り組み、健康経営を推進する。

ライフワークバランスの実現・一人ひとりが成長し、活躍できる組織

日本新薬では、「特長のある製品は個性あふれる人材から」の考えのもと、多様性を尊重し、一人ひとりが前向きにチャレンジし成長する機会を提供することで、一人ひとりが活躍できる組織風土の醸成に取り組んでいます。

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

日本新薬では、性別や年齢、国籍、個人の特性などに関係なく、さまざまな人材を雇用し、ダイバーシティの推進に取り組んでいる。イノベーションを生み出し、持続的な成長を果たすために、多様な価値観を持った従業員一人ひとりが自立し、生き生きと活躍できる職場風土を醸成するための取り組みも進めている。

地域社会

日本新薬は、製薬企業として優れた医薬品を世に提供することはもちろん、社会や地域の一員としてその発展に貢献することも果たすべき役割だと考えている。

CSR 調達

日本新薬においては、経営方針の一つに「社会からの信頼を得る」を掲げており、その推進に当たり「日本新薬 CSR 調達基本方針」として、コンプライアンスの徹底、機密保持、公平・公正な取引、合理性に基づく取引先選定、環境への配慮といった5つの項目を策定していて、社会から信頼を得るための基本的な考え方を示しており、その考え方に基づき取引先とともに CSR 調達に取り組む。

ESG 経営のガバナンスへの取り組み

コーポレート・ガバナンス

日本新薬は、社会貢献を通じて企業価値を向上させるために、経営の透明性を確保し、すべてのステークホルダーへの説明責任を果たすことが経営の最重要課題の一つであると認識している。

リスクマネジメント

日本新薬では、情報セキュリティに対する取り組み姿勢を示す基本方針と基本規程を定め、これらに基づいて情報セキュリティマネジメントシステムを運用し、その推進組織として ISMS 推進委員会を設置している。

結論、日本新薬の統合報告書 2021 年を通じて、私は、本社は、持続的な成長に向けて挑戦を続け、社会から信頼され、必要とされる事業体を目指して邁進して経営理念である「人々の健康と豊かな生活創りに貢献する」を事業活動の軸とし、「高品質で特長のある製品を提供する」「社会からの信頼を得る」「一人ひとりが成長する」を経営方針に掲げていて、売上や利益などの経済活動を追求するだけでなく、社会課「ヘルスケア分野で存在意義のある会社」になるために題の解決に貢献することで企業価値を高め、ヘルスケア分野でなくてはならない事業体として「存在意義のある会社」であり続け、財務成果や新たなイノベーションにつながることを意識した戦略などを立案する、姿を目指している、と考えている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

私は、日本新薬の競争優位性を理解することができたと思う。以下は、日本新薬はビジネスにおいて本社が他社よりも有利なポジションにいて、この会社が消えたら社会は困ったり、何できなくなったりするかの要因を述べる。

競合他社がマネできない独自性・他社との差別化ができること・社会に提供してる価値

1. 高品質の維持と低コスト化。
2. 高品質で独自性の高い製品をグローバルに提供している。注力する 4 つの領域（泌尿器科、血液内科、難病・希少疾患、婦人科）を中心として治療ニーズが満たされていない疾患領域を主なターゲットに、高品質で特長のある医薬品を提供している。製薬企業としての高い技術力を生かし、注力する 4 分野（健康食品素材、品質安定保存剤、プロテイン製剤、サプリメント）を中心として、市場ニーズに応える高付加価値製品を提供している。
3. 低分子や核酸医薬などを軸とした独自の研究開発。これまで日本新薬は、低分子や核酸医薬など独自の研究開発力を生かして、希少疾患である肺動脈性肺高血圧症治療剤「ウプトラビ」や、デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「ビルテプソ」を創製し、有効な治療法がなかった希少疾患の患者さんに新たな治療選択肢を提供してきた。さらに低分子や核酸医薬にとどまらず、遺伝子治療など新たな創薬モダリティにも取り組み、アンメットメディカルニーズ（いまだ満たされていない医療ニーズ）の高い希少疾患に対して薬剤をいち早く届けられる）。
4. フードロス削減への貢献。本社では、独自に開発した製剤化技術を用いて、食品のロングライフ化（食品のロングライフ化は食品ロス削減の有効な手段の一つとなる）に取り組んできた。近年では、AI を活用した新しい技術を積極的に取入、日持ち効果とおいしさの両立を実現した品質安定保存剤を世の中に広く提供することで、食品ロス低減に貢

献している。

5. 気候変動対策の推進。日本新薬は、環境に対する社会的責任を認識するとともに、会社の重要な経営課題としてとらえ、事業活動のあらゆる領域で環境負荷の低減に取り組んでCO2 排出量削減を推進している会社である。
6. 安定供給。日本新薬は、医薬品の生産および医療機関への供給体制が揃っているため、供給に問題ない。
7. 独自性の高いヘルスケア製品や素材を世界中の人々に届ける。
8. 疾患に関する理解向上を目的に、さまざまな情報提供活動を実施している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

高品質の維持と低コスト化。安定供給。フードロス削減への貢献。疾患に関する理解向上を目的に、さまざまな情報提供活動を実施している。気候変動対策の推進。

これらの競争優位性は上の日本新薬の競争優位性は、社会に提供する価値としてはあり、これらはそのまま、10年後も提供し続けられると思う。理由は、世界の経営者は今後10年間、さらに競争の激しい時代を迎える新たな段階の経済に向き合うことになるため、お客様のニーズを察知して、気配りの届いたおもてなしを行ない、お客様が求めている商品やサービスに対して詳しく説明し、お客様に満足してもらうことが仕事の基本となりつつあり、差別化を図るために無料相談や24時間電話対応など幅広いサービスの充実が必要とされていて、そして、技術や交通などが飛躍的に発展されている中、安定供給と高品質と低コスト化がより確保されやすくなり、さらに、最近では、環境保護意識の高まりやSDGs（持続可能な開発目標）の浸透によって、業界や企業における温暖化対策に注目が集まるようになってその実績は投資家や顧客、取引先の反応を左右する評価指標にもなっていて、とくに日本は、二酸化炭素（CO2）排出量が世界上位に位置することから、立地企業は地球温暖化問題と向き合う社会的責任をより強く求められる傾向にあるので、「高品質の維持と低コスト化」・「安定供給」・「フードロス削減への貢献」・「疾患に関する理解向上を目的に、さまざまな情報提供活動を実施していること」・「気候変動対策の推進」などは、10年後維持されるべきことであるからだ。

高品質で独自性の高い製品をグローバルに提供している。低分子や核酸医薬などを軸とした独自の研究開発。独自性の高いヘルスケア製品や素材を世界中の人々に届ける。

血液内科領域や泌尿器領域においても、長年にわたる活動で、医療関係者から高い評価をもらっていて、肺高血圧症領域では、肺動脈性肺高血圧症（PAH）の適応を有する「ウプトラビ」「オプスミット」「アドシルカ」と3つの異なる作用機序の経口剤を世界で唯一取りそろえるリーディングカンパニーとして、治療や地域の医療体制の整備に貢献していて、さらに、治療ニーズが満たされていない疾患領域を主なターゲットに、高品質で特長のある医薬品を提供している。そして、日本新薬には、低分子医薬品の「ウプトラビ」、核酸医薬品

の「ビルテプソ」を生み出した優れた研究開発力があり、さらには、新たなモダリティとして遺伝子治療に取り組み、幅広い創薬力を追求していて、4 領域（泌尿器科、血液内科、難病・希少疾患、婦人科）を中心に、注力しようとしている。

故に、日本新薬は、研究開発力が優れて、高品質で特長ある、特定の製品を社会に提供し、それについてより深く研究し活かそうとしているため、これが日本新薬の見えざる資産として、10 年後も競争優位性を支えると思っている。さらに、世界の科学技術の急速な発展と東南アジアや中国の国々の台頭により、科学技術の分野で独自の強みを長期的に維持することは、他の会社と格差をつける雄一の存続の方法になると言える。日本新薬は 10 年後にこの競争優位性はまだあり、その上に他の会社と差別化するための主な武器として維持するだろう。

しかし、世界は今後の 20 年間、不確実性の状況の下にある時代であり、新たなグローバル競争モデルが生まれて、これまでにないような競争時代に入ったと認識されている。さらに、会社は、不確実なグローバル市場に企業はどのように対応していくのかを考察することが難しい。さらに、きのうまで内外の市場で優位を誇っていた製品やサービスが気が付いてみると競争力を失って市場から姿を消している現象が顕著であるこのように多くの製品において短期間のうちにその技術の汎用化が進行して、先端的な製品でさえ低価格化と商品としての陳腐化が進んでいる。ゆえに、日本新薬は、20 年後、新しいグローバル・ビジネス競争モデルの条件のしたで、最適化を達成するため、上で述べた競争優位性が維持されることが難しくなると思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。以下はその理由を述べるのである。

最初に、全社 IT リテラシー向上による IT 人材育成促進。日本新薬は、デジタル人材の育成面では、大学の育成プログラムへの参加、学習・資格取得支援などを実施しており、今後もスペシャリストの育成と全従業員の IT リテラシー向上を実現していく方針を策定する。また、デジタル企画推進課が中心となり、最新デジタル技術の情報収集や導入、各業務部門のニーズ把握、デジタル人材の育成などを行っている。さらに、日本新薬では、デジタルの活用を持続的な成長に向けた経営上の重要項目の一つと位置付け、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進して全従業員を対象として、選抜型の DX スペシャリスト育成教育と、全従業員の IT リテラシー向上施策を二本の柱として実施している。そのため、私は、日本新薬が、デジタルソリューション導入やデジタル人材育成を実施することをきっかけとして、自身の担当業務や業務プロセスを見直し、ビジネスパーソンとしてのスキル開発に前向きに取り組むことができると思う。

次に、ライフワークバランスの実現・一人ひとりが成長し、活躍できる組織。日本新薬では、「特長のある製品は個性あふれる人材から」の考えのもと、多様性を尊重し、一人ひと

りが前向きにチャレンジし成長する機会を提供することで、第六次 5 ヶ年中期経営計画にある「一人ひとりが活躍できる組織風土の醸成」に取り組んでいる。そのために、私は、この会社で、私が自ら考え行動し、積極的にチャレンジすることができる。それで自分自身の成長につながり、そして会社の成長にもつながると考えている。また、教育・研修体系「CASA」があり、自分の強み・弱みをそれぞれが振り返り、豊富なカリキュラムの中から自分に合ったプログラムを選択することができると思う。

次に、両立支援の取り組み。日本新薬は、内閣府が実施する企業主導型ベビーシッター利用者支援事業を導入したため、私は、自身の仕事と生活の両面の質を向上させて、ライフワークバランスを実現できる企業風土づくりにいて、両立支援策で充実していく。そのために、仕事に集中し、スキルレベルと仕事の質を向上させるだけでなく、思考に影響を与える精神的ストレスを回避することができると思う。

最後に、持続的成長の原動力は「人材」。日本新薬は、「社員と社員を支える家族がこころも体も健やかで、職場には笑顔と活力が満ちあふれていること」を基本方針として、快適な職場環境を形成することを目的とした取り組みを行っている。そのため、私は、体の最も快適な状態で作業し、作業で高い効率を達成し、専門的なスキルを迅速に向上させることができると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

見る人が、事実を具体的かつ正確に記載するかどうかを知るために、現実の画像と実際のデータなどをもっと入れる必要がある。会社に関わる動画があれば、YOUTUBE に載せて、そのリンクをレポートに貼ればいいと思う。

文章が主観的にならないように気を配ること。このレポートは、この会社の主観的な意見・評価があるが、客観的な意見がまだ少ないと思う。

その目的に沿って判明した事実を記載しているが、同じ内容を繰り返して使われているので、読者にとっては飽きる感じを与えるレポートだと思う。さらに、この会社にあったことをすべて書いてしまうと、長くなり読みづらさがある。

事実をもとに、分析、解釈をもっと行い、具体例を出す必要がある。

参考文献：

<https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/010752.php> 「サプライチェーン排出量とは何ですか？
- おしえて！アマタさん」

<https://www.toshibatec.co.jp/products/office/loopsspecial/blog/20201120-50.html> 「なぜ、企業は地球温暖化対策に取り組まなければならないのか？」

https://www.nippon-shinyaku.co.jp/ir/ir_library/ebook/2021/viewer.html 『日本新薬レポート 2021』

<https://apps.main.teikyo-u.ac.jp/tosho/keizaigaku45-2-08.pdf> 『なぜ競争優位が持続しないのか？』

<https://www.amita->

[oshiete.jp/qa/entry/015392.php#:~:text=ESG%E7%B5%8C%E5%96%B6%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81%E6%B0%97%E5%80%99,%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8%E3%82%92%E6%8C%87%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82](https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/015392.php#:~:text=ESG%E7%B5%8C%E5%96%B6%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81%E6%B0%97%E5%80%99,%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8%E3%82%92%E6%8C%87%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82) 「ESG 経営とは？メリットから企業事例、導入するポイントについて解説！」